



Valo / hotarusounds

01. 蛍光	(2:07)
02. happy dawn	(4:34)
03. ミチクサ	(4:53)
04. 洋上の小舟	(2:55)
05. こんな日に咲く花	(3:46)
06. jellyfish	(3:51)
07. mizore brain	(3:16)
08. こがね	(4:31)
09. cicada's shell	(1:50)
10. レイニー	(4:06)
11. ion	(1:43)
12. あまやどり	(5:30)
13. フラクタル	(5:25)
14. 水無川	(3:06)
15. planet	(4:17)
16. clover	(3:54)
17. トワイライト	(4:18)
18. SKD	(3:01)
19. ひかり	(6:06)

01. 蛍光

まっしろな霧に星は紛れ
棧橋に今日も舟は無い

なんとなくそれを握りしめた
いつからかそれが放せなくなってた

まっくら湖 月は潜り
旅人は今日も眠りにつくのさ

ほんとは誰かに聞かせたくて
ほんとは誰かに聞きたくて

影がざわめく木々を抜け
土にまみれた体を浮かべたのさ

夜の水辺 暗闇にもう飲まれそうな明かり
ぼんやり目の前だけ照らしてくれればいい

それが道しるべ 誰にも届かない光だとしても
じんわり温かいその感触を ぼくは知ってるから

そっと羽根を休めた後に
きっと広がる大空へ飛び出せ

02. happy dawn

さあ行こう 向かい風
せまい手の平に どうせ想いは並べ切れない
いや そうだね 悲しいよな
掴んでもすり抜ける 光と闇 高い空

It's just begun その目を開けて
ハッピードーン 願いを込めて
こんなふうに見えるから
ハッピードーン 言い聞かせる合言葉

どこへも行かないよ どこへでも行けるから
答えはいらないし 痛みと誓い 赤い空

It's just begun 良くも悪くも
ハッピードーン 昨日の続き
そんなふうに見えるから
ハッピードーン 今日へと続く道

Tシャツにかいた汗も乾く
ハッピードーン 陽を泳ぐ風
どんなふうに変われますか？
ハッピードーン はじまりの朝の音

03. ミチクサ

穏やかな陽だまりと 薄氷の水たまり
寒空によく映える 山茶花の口紅の色

ぼんやりと いやもうくっきりと
見え透いた自分の正体に
理由もなく いやもう理由がありすぎて
悔しくて 涙が出たよ

トタンを揺らす風 春の匂いがする

あー今日はいいい日だな
いつもの路地裏も こんなにも綺麗だな
ちっぽけな 愁い事をよそに

神様はどこまでも 公平で平等だから
あんなにも優しい人の
明日を奪う仕事を淡々とこなす

トタンを揺らす風 春を待つ並木の下
火に焼べた しわくちゃの紙切れは
なかった事にして

あー今日はいいい日だな
手を振るサヨナラも こんなにも素敵だな
ちっぽけな心は どこまでも見透かされてる

04. 洋上の小舟

とっぷり日が暮れて まんまるお月様
どっかに置き去りの 歌がまだ 聴こえてる

ぼっかり空いたまま さっきの星たちの群れが
とっさにその穴に 音も無く 落ちてゆく

どうして気付いたの？ それは遠くに見えたはずの夢
何度も形を変えては 大きな海に変わる

あんなに泣いたのに こんなに笑ったのに まだ
何度も繰り返す 遠回り いつものようにただ

そうして気付いたよ それは遠くに見えたはずの夢
ぼんやり蜃気楼の中 大きな海を知れば

こうして寄り添えたことが とっくに奇跡なのですね
もうすぐ夜が明ける前に 小さな星明かり頼って

05. こんな日に咲く花

それは週末の天気予報がはずれた
ピンクの雲や 空に
まるで羽ばたいた小鳥の群れの
動線みたいに散らばった

眼鏡のすきまを抜けて どこかへ運んでくれよ 涙

気付けばころがっていた 見慣れた景色や色も
窓際 曇らせている 日常に満ちた湿度も

どうしたんだい、傷が痛むかい？
そんな日には強がらずに 弱音を吐いてもいいんだよ
どうしたんだい、少し暑いかい？
こんな日には窓開けて 溜まった熱を逃がそう

そこはカナリヤみたいに鳴いた
透き通るヒグラシの声 止んで
細く絡まった木の枝の先
落ちてく夕日の色が 咲いた

欠けてく月が雲間に 広げた星空マント
流した涙の海を 照らした車のライト

どうしたんだい、傷が痛むかい？
あんな日を忘れないでと 思い出させてくれる
どうしたんだい、少し寒いかい？
こんな日にはぬくもりを、明かりを絶やさず照らすよ

笑顔に 咲かすよ

06. jellyfish

Wandering blue lights, I'd have like to catch them all.
Because of greed, what I got were nothing but flabby prastics.

裏切らない言葉で 詳らかに教えてよ
「近道など無いはず」
やがて積もり積もった微生物の果て
さながら散る花の様 はたまた探った故の戒めか
もう単なる泡沫か 心当たり枚挙に暇ない

行ってみたいな 行く意味は無いけど
痺れ切らして空想に没頭
尋常じゃないな いっそ醒めたいのさ
息を切らした 体が嘆く

屋上から目薬 地上は滾ったヒアルロン酸の海の底
クラゲは毒を持つ事さえも許されない

行ってみたいな 行く術は無いけど
痺れに慣れた空虚なモットー
人情味無いな すぐ目覚めたいのさ
どうせなら春雨サラダにしてよ

07. mizore brain

穴の開いたジョーロで撒いていた 水も無く
上手に撒いていたんだ
へたり込んで荒野で待っていた 策も無く
勝負師待ってた

予想通り今日また落ちていく 夢の中 替えが無い心
夢想だにしないわそんな事 敢え無く 範囲に落ちてた

※さっさと放り出して
しった気分になって
すっかり枯れ落ちていた 面影も感じないほどに
せっせと耕した
そっくりな自分が

またすぐ嫌になりそうな 気まぐれを許さない

予定通り今日にも老いていく 昼日中
絶え間ないこの世
理想通り興味を削いでいく 漏れ無く
翻意しちゃってた

※repeat

まだ懲りてない脳みその 過ちを許さない

仕掛けてた罠に嵌ってあがいてみる

藪の中 あてどなく 夢の中

08. こがね

寝ぼけまなこの 猫が歩いて
あくびして 消えたと思ったら
見違えるほど 素敵な風景が
目の前を置き換えてゆくよ

通り過ぎた日々はこの街のどこか
とぼけた顔で見ているのさ チラリチラリ

うつむいたまま 黄色のパンジーの
ひたむきな想い こぼれないためにも
誰かの帰りを 待ってる太陽が
ジリジリとその胸を焦がす
隠した気持ちのまんま

通り過ぎた日々は僕たちを変えて
遠くの街へ飛んでいくのさ ヒラリヒラリ
揺られながら

等身大の雲に乗って 見下ろした街は
眩しいくらい輝いてる キラリキラリ
落ち込んでるあの子に 届け春風のメロディ
麗らかに咲き誇れよパンジー 日々を乗せて

歌いながら

09. cicada's shell

10. レイニー

相変わらず 泡沫の今
そこには 途切れ途切れ

そっと回して 針を落とせば
あの日の声がする

たどる糸の先に したたる雨の 水滴の音

Any road 頭の隅に降り続く
想いの意味も 知らずにいたくて

襟を濡らした 涙に気付かぬ
一人の間抜けを 帰り道の傍 投げ捨てた

張り出す店先に 残る夕明かり
やがて 去る 人

Sailing on 雨降る道を泳いでく
滲んだ日々も 記憶に溶けて

笑みを残した 涙に気遣う
ふざけた言葉たちを イヤホンの音で
掻き消した

11. ion

12. あまやどり

真っすぐ続く慣れた道 顔をしかめる空模様
追いかけてくる雨脚は 各停の電車よりも速く

洗濯物が取り込めず 濡れたまんまのベランダも
とっさの気持ち飲み込めず 口から出た幼稚さも

こうして見れば 白く煙った水しぶき
分け隔てなく ただ万物を包み込み 濡らしてく

雨宿りしてる君の待つ 駅へと 駅へと急ぐけど
あの日 知らん顔してた僕のこと
どこまでも どこまでも 許さないで

枝分かれた稲光 まださっき別れたばかりでも
どっかの誰かの涙など 勢いよく流す水路

そういえば昨日 白く残った飛行機雲
どこまでいっても ただ俗物な我々のいやしさを
笑ってる

雨宿りしてる君の待つ 駅へと 駅へと 急ぐけど
あの日 知らん顔してた僕のこと
どこまでも どこまでも 許さないで

空回りしてる日々さえも 果てへと 果てへと向かうけど
まるで ろくな事言わない僕のこと
いつまでも いつまでも たしなめて
どこまでも どこまでも 許さないで

どっかの誰かの涙など 勢いよく流されて

13. フラクタル

真つぐ差込む光も 気持ちの中で折れ曲がるけど
じんわり脈打つぬくもり それに溺れるのを怖がってる？
無いこともないけれど

遠くを見渡せるほどに 淀んだ魂は洗われました
そのせいかは分からないけれども
目の前が眩しすぎて 見えない事もあるけれど
同じ形続いてく

ハリボテみたいなものでもかまわない
仮初みたいなことでもかまわないよ
頼りない形でも ああ持ち合う心が相似形なら

上手に言えない言葉が ポロポロと地べたを汚してるけど
うっすら残った足跡 それが薄れるのを怖がってる？
無いこともないけれど

無いものはあるけれど あるものを見つめながら

たまには二人でお茶でも行こうかと
いかにもみたいなアイデアもやぶさかでもなく
いささか小洒落た店でもいいのかもなんて
はなはだ大げさなくらいが丁度いいのかもなんて思ってる

繰り返し 続いてく 同じ形

14. 水無川

15. planet

きみがつくった泥だんご
いつかコアになって星になる
もうこの世にたった1つだけ
ピカピカになるまで磨いてごらんよ

こんなにも ありふれたコードに
こんなにも あたりまえの気持ちを
乗せて歌うのは なんてだろう
分からないふりして歌っている

とても小さなその世界 でも果ても見えない世界
駆け抜けてくその声 この手をすり抜けてく
砂は流れ続けてる だれも知らない明日に

ザラザラだった胸の奥
きみの砂ふるいにかけて
サラサラになったこの気持ち
いつだってふりかけてあげるよ

こんなにも 晴れた日なのに
こんなにも どうしてこんなにも

もう春も終わりだね またすぐ暑くなるね
どこまでも続くような 帰り道をたどる
小さなその世界 果ても見えない世界
駆け抜けてくその声 この手をすり抜けてゆこうと

砂は流れ続けてる でもひかりがあふれてる

カラカラだった喉の奥
いつも怖くなって逃げ出したけど
サラサラになって風に舞い
カチカチになるまでふりかけてあげるよ

きみがつくった泥だんご
いつかコアになって星になるまで
もうこの世にたった1つだけ
ピカピカになるまで磨いてごらんよ
いつだってふりかけてあげるよ

16. clover

晴れた 雨上がりの雲は高く
冴えた 空気の色に染まる風

そこにはまるで誰にも 知られてない物語
あっという間 未来は変わる
それはただ速く

顔出せ 草萌ライジング 踊りをやめないで
おいでよ 一陽来復 戻りたくなる前に

溶けた ビードロ色の思い出も
冷めた 花びらの温度に宿り

古ぼけた橋の欄干 サラサラと音を立てては
あっという間 視界を変える
緩やかに 影は伸びてゆく

顔出せ 草萌ライジング 踊りをやめないで
おいでよ 一陽来復 戻りたくなる前に
繋ぐよ 歌を選んで 届けてゆくように
探すよ 一往一来 ほどけてゆく前に

17. トワイライト

今更言えないよ
まだ今を照らして ただ胸を焦がして

きっとすぐにもでも全てを受け入れなくちゃ
ぞっとするほどの冗長な嘘が 滑稽に見えた

どこかで元気にしていますか？

おしなべて見れば
ごちゃ混ぜの思惑も くちなしの匂いも
闇に溶ける

滲んでく今日に 色付く世界を
さっきまで僕らは見ていた

とりあえず行かなくちゃ
そんな顔で暮れてく空に 今更残る光が
まだ今を照らして 早く片付けなさいと
散らかしたままの気持ちを 吸い込んでいく

18. SKD

ほらみてみ ゆったやろ
いwanこっちゃない あほやなあ
せやからもう やめときや
おなじことやて しらんけど

ほらきてみ みえるやろ
なんのこっちゃない しょうもな
せやからもう なやみなや
いにあなあくて しらんけど

ほんなら ええよ わかったで
そないに いうんやったら
そやけど やるんやったら
まえみて しゃんとしいや

ほんでも ええかっこしなや
どないも ならんときや
ほんまに あかんときは
すなおに ちゃんといいや

そらそーやなあ よっしゃ わかったで
そないに いうんやったら
そやけど やるんやったら
まえみて しゃんとしいや

ほんでも ええかっこしなや
どないも ならんときや
ほんまに あかんときは
すなおに ちゃんといいや
まえみて しゃんとしいや まえみて

ほないくわ ぼちぼちな
じぶんかってで ごめんな
せやけどまあ ちゃうどっかで
あうんちゃうかな しらんけど

19. ひかり

新幹線は駆け抜けてゆく 短い春を飛び越えてゆく
景色の無い時間を彷徨っては 川辺に咲いた花を揺らす風
辿り着けば消えてしまいそうで いつだって怖いから
言えずにいるよ

味の無い夢たいらげた朝 大丈夫と強がりを言わないで
いくつかの呪文を教えるよ いつだって守ってくれる
まじないの言葉

その小さな手の平広げたら こぼれる光は
眩しすぎて前が見えないくらい
だからゆっくり まだゆっくり歩こう
今は手を繋ぎながら 迷わないように

新幹線は駆け抜けてゆく 短い春を飛び越えていく

あの大きな青空見上げたら 届きそうな虹は
今はまだずっとずっと速くにあるのさ

だけど泣いたり笑ったり歌ったり しながら歩いてゆこうよ
手を繋ぎながら

production period : 2018~2021

recorded & mixed at : hotarusounds recording studio

all music & words by : hotarusounds (Hideyuki Iuchi)

arrangement / mixing / programming / vox / keyboad / guitar / bass / other instruments by : hotarusounds

mastering by : Whereabouts Records Mastering